

製品安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

製品名	商品名
<b>活性炭（食品添加物用）</b>	<b>G-coal PS-295</b>

会社名：サンフロンティアケミカル株式会社  
住所：岡山県加賀郡吉備中央町下加茂1112  
担当部門：技術部

電話番号：0867-34-1811  
FAX番号：0867-34-1141  
緊急電話番号：0867-34-1811

推奨用途及び使用上の制限

吸着材

2. 危険有害性の要約  
GHS分類

分類対象外

## 3. 組成及び成分情報

単一成分・混合物の区分  
化学名  
一般名  
化学式  
CAS登録番号  
官報公示整理番号  
含有量

単一成分  
炭素  
活性炭  
C  
7440-44-0  
該当なし

## 4. 応急措置

吸入した場合  
皮膚に付着した場合  
目に入った場合  
飲み込んだ場合

水でよくうがいをし、新鮮な空気のある場所に移って安静にする。  
石鹼と水でよく洗い流す。  
眼をこすらず直ちに清浄な流水でよく洗眼する。異常があれば医師の手当を受ける。  
水でうがいをし、口の中をよく洗浄する。異常のある場合は医師の手当を受ける。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤  
使ってはならない消火剤  
消火方法

粉末消火薬剤、水噴霧、泡消火薬剤、二酸化炭素。  
棒状注水は火の粉が飛び散ることがあるので注意する。  
火炎をともなって燃えることはないが、近くの引火性、可燃性物を排除し、適切な消火剤を使用して消火する。  
燃焼時、一酸化炭素を発生するので自給式呼吸器を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項  
環境に対する注意事項  
回収・中和・洗浄方法

状況に応じて保護具（呼吸用保護具、手袋、長靴、眼鏡等）を着用し、当該物の吸入や直接接触を避ける。  
漏出物が河川などに排出されないようにする。  
箒、電気掃除機などを用いて、出来るだけ粉じんが飛散しないように捕集し空容器に回収する。  
放電火花を発生しない道具を用いる。少量の場合は水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意

吸入したり眼や皮膚に触れないように、防じんマスク、安全眼鏡（ゴーグル）、手袋などの適切な保護具を着用する。  
発じんを極力抑え、屋内の取扱場所には局所排気装置を設置する等、作業環境を許容濃度以下に保つ。  
貯蔵タンク等密閉された場所では、活性炭の酸素吸着により酸欠状態になるので、酸素濃度を測定確認し、送気マスク等を着用して作業する。

保管上の注意

水濡れ、破袋に注意し、正規の包装状態で保管する。高温にならないよう直射日光を避け、湿気の少ない屋内に保管する。  
火器、強力な酸化剤から離しておく。

## 8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度  
許容濃度

厚生労働省告示第369号（2004） 3.0mg/m<sup>3</sup>  
日本産業衛生学会勧告値 0.5mg/m<sup>3</sup>（吸入性粉じん） 2.0mg/m<sup>3</sup>（総粉じん）  
AGGIH勧告値及OSHA許容濃度は定められていない。  
TLV, MAKは設定されていない。

設備対策

屋内作業場で取扱う場合は粉じん発生箇所の密閉化、または局所集塵装置を設置する。  
取扱う場所の近くに手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明示する。

保護具

送気マスク、防じんマスクなど呼吸用保護具、保護眼鏡、保護手袋、保護長靴等。

## 9. 物理的及び化学的性質

対象物の外観  
におい

固体、粉末、黒色  
無臭

凝固点・沸点・融点

データなし

引火点・自然発火点

引火しない・データなし

燃焼又は爆発限界の上限、下限

データなし

蒸気圧、蒸気密度

データなし

比重

1.6~1.8 g/ml（真密度）

嵩密度

0.2~0.4 g/ml（充てん密度）

沸点・融点

データなし

溶解度

不溶（水）

発火点

約500 °C（JIS K -1474に準じた結果）

10. 安定性及び反応性	
安定性	通常の取扱条件において安定
反応性	空気中での高温過熱や、オゾン、液体酸素、硝酸塩、過酸化水素などの強酸化剤との接触を避ける。これらは急激な酸化（燃焼）、発火の原因になる。吸着物質の種類や濃度によっては、湿潤熱、吸着熱、反応熱などにより、発熱、発火の原因となる。
避けるべき条件	空気中での高温過熱、強酸化剤との接触。
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	情報なし
11. 有害性情報	
刺激性	眼、鼻、喉への付着刺激
急性毒性	経口、LD50(rat)>10g/Kg                      吸入、LC50(rat, 4時間)>50g/m <sup>3</sup>
慢性毒性	長期暴露による影響の知見はない。
感受性	データなし
発癌性	NTP、IARCとも報告なし。
その他	高濃度の粉じん濃度条件下で作業した場合、じん肺障害を起こすことがあり、粉じん障害防止規則で規制されている。暴露により、風邪、アレルギー、喘息、肺水腫及び乾癬などは悪化することがある。
12. 環境影響情報	
生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壌の移動性	データなし
13. 廃棄上の注意	
廃棄方法	使用後の廃活性炭の廃棄処分は産業廃棄物業者に依託する。 自社処分の場合は安全性確認の上、焼却又は埋立による。被吸着物質の内容により、注意して処分する。
容器・包装の処理方法	都道府県の関係法規に従って処分する。
14. 輸送上の注意	
国際規制	海上輸送：国際海事機構（IMO）の規定に従う。 航空輸送：国際民間航空機構/国際航空運送協会（ICAO/IATA）の規定に従う。
国連分類	該当しない
国連番号	該当しない
国内規制	消防法上における指定可燃物（石炭、木炭類：10,000kg以上）に該当するので、同法規定に従った容器、積載方法により運送する。 海上輸送は船舶安全法、航空輸送は航空法の規定に従う。
特別の安全対策	容器が破損しないように、水濡れや乱暴な取扱いを避ける。
15. 適用法令	
消防法	指定可燃物（石炭、木炭類 10,000kg）
船舶安全法	危規則第2条危険物等級4.2自然発火性物質（正4.2容器等級Ⅲ）
航空法	施行規則第194条危険物自然発火性物質（Ⅰ等級Ⅲ）
食品衛生法	食品添加物基準（食品添加物用活性炭の場合）
安衛法該当規制	粉塵障害防止規則、酸素欠乏症防止規則
労働安全衛生法	対象外
施行令18条の2	
化学物質排出把握管理促進法	該当しない（PRTR法）
じん肺法	じん肺法施行規則
16. その他の情報	
参照情報	国際化学物質安全カード（ICSC：0702） 化学物質総合情報提供システムChemical Risk Information Platform（CHRIP）
その他	記載内容は、現時点で入手できた情報等に基づいて作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。物理化学的性質は保証値ではありません。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする場合は、新たに用途、用法に適した安全対策を実施して下さい。